洋書調所譯　壬戌八月刻

官版

海外新聞別集

日本使節巡行紀事

東都江左老皂館

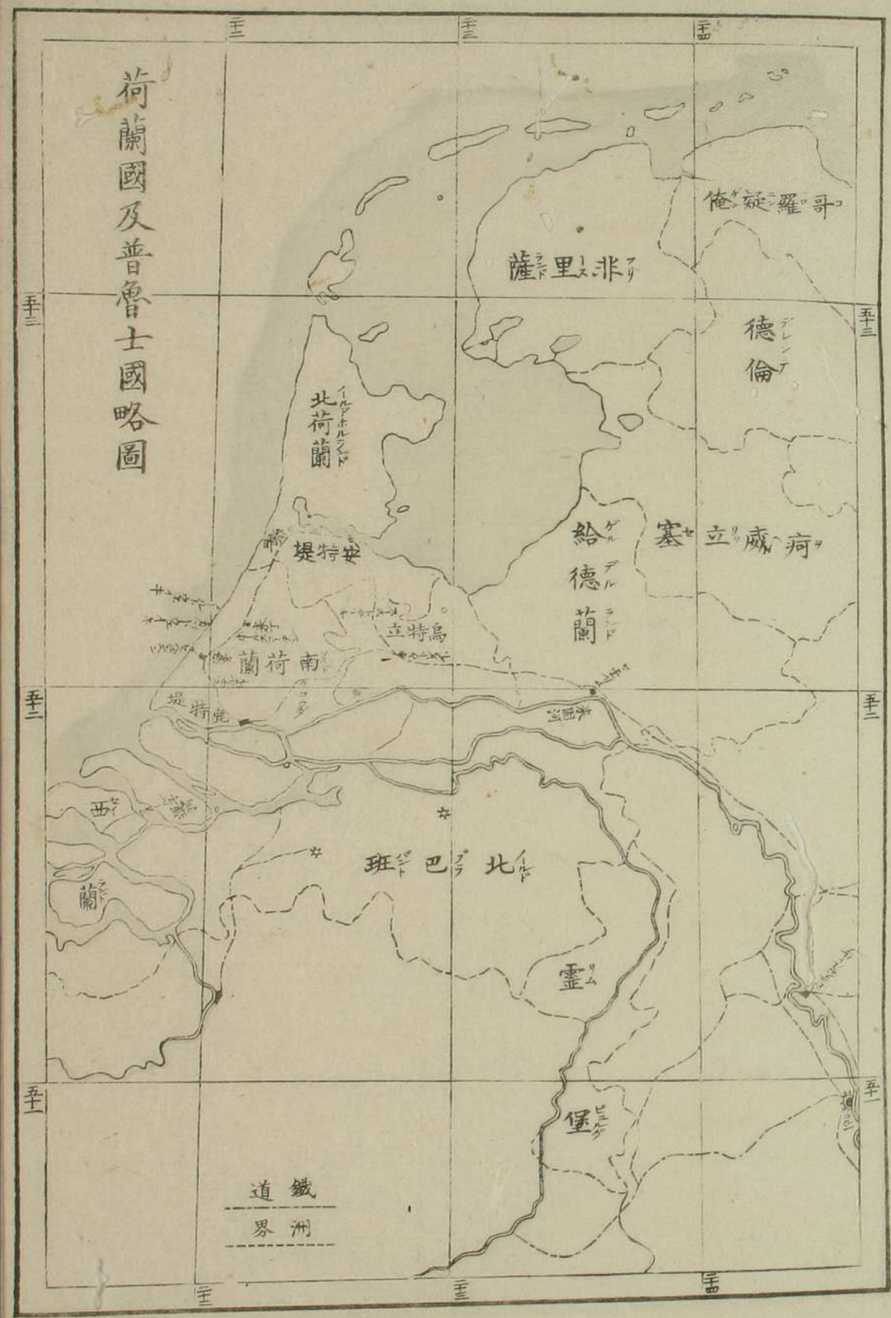
洋学文庫
文庫8
B 120
2

海外新聞

例言

新聞紙中日本の箇條より往々事の誤れるもの少からず是も外國人日本の事情を通知せざるより因る然れども今原文より從ひ之れを改めざるも其情態を存せんが為なり

39-7925


荷蘭國及普魯士國略圖
哥羅疑俺
非里薩
德倫
北荷蘭
安特堤
給德蘭
寒立威荷
烏特立
南荷蘭
堤特鹿
西
蘭
班巴北
靈
堡
鐵道
界洲

海外新聞別集　九月印刷

原本バタヒヤ新聞第二十六號（千八百六十二年第三月二十九日即ち文久二年十九日あり）

○日本國使節の事

日本より歐羅巴へ使節とし遣す人員新に定る所左の如し

即ち

正使　勘定奉行兼外國奉行竹内下野守

副使　神奈川奉行兼外國奉行松平石見守

監察　御目付即横目役京極能登守

右の外其從屬として役人十八人醫人譯官橋及び家屋の監

官御普請奉行欽調役御勘定等及び僕十四人を携へ行く

同第三十二號同年第四月十九日即ち三月二十一日なり

荷蘭のコンシュル・ゼ子ラール今年第一月廿二日横濱より居りしが其日日本政府より歐羅巴より遣す使節英國の蒸氣船オーヂンより打乘りて江戸を出立せり此船よりコムモドレ皆ンヘイ指揮官とありて右の使節を香港及び新嘉坡を過ぎ蘇士の方より送れり

右使節も暫時埃及より逗留し尚英國の軍艦を以て佛蘭西より送られ先巴黎より至り其後英荷普峨及び葡の諸國より至り其後佛國の軍艦を以て日本より送り歸さるべし

英國のミニステルも日本政府より勸めて使節の頭より高位の人即ち大名中の一人を遣らしめんとせり然れとも其答より曰く大名より此の如き命令を下す權なし依て外國使節より適當せる人品を撰定する要をしとせりと

使節の頭より命ずるカミの稱號も必しも一國の領主と云の義よあらず支配、取扱、看守の義なり是を以て國主及び神祇より之を命ずるなりと但し大君より支配頭と立つる所の人譬へば公領の奉行の如きも國主等之を快しとせずと雖も大君之を命ずるときも其命名を受くるなり

右の使節及び從屬者も其數合せて三十五人なり

同第四十三號（同年第五月二十四日晦日ヨリ十八日即チ）

佛國の公報モニテウルの中ヨ日本使節のマルセイルレヨ來着せるヒを告けて左件を書き加へさり

日本使節ヒ巴黎ヨ到着ー佛帝ヨ謁見せー後江戸府の爲ヨ益を爲べき諸件を吟味ー且寫ー取る爲佛國の諸部を見物せりと云又日本使節ヒ倫敦ヨ至りて展觀場の開けるヨ會ー其後諸所の告知を得及び歐羅巴諸地文明の次第を察ーて伯靈威也納及び彼得堡ヨ行く目論見ありと云

右使節彼得堡より止白里を過き江戸ヨ歸らんとするも成るべうらざるヒヨあらず但ー此道路を經て行くときヒ尋常の道路を經て歸る時間の只三分一を要すべー

日本より往時西土ヨ送りさる使節ヒ千六百五十二年法王の許ヨ送れる一使節及ひ二三年以前合衆國ヨ送れる使節のみ

但ー法王ヨ送りさる使節ヒ元來日本政府より出せる者ヨあらずーて加特力教の僧侶基督宗徒ヨ改心せーめさる日本の大家より送りさるあり此使節ヒ羅馬ヨ至るヨ三年の時日を費ー出國後八年ヨーて日本ヨ歸れりと云

モニテウル中專ら日本人の學を好み且伶俐ヨーて性俊秀なるヒを稱賛ー且亞細亞大陸の魯鈍遲澁の民と遙ヨ異ふ

りと云へり

同第四十七號（同年第六月十一日即ち五月十四日あり）

佛國の條に曰く日本使節巴黎斯に於て夏日の駈馬調練を見物し且宰相トウヘ子ルの宅に其調練をかしとる者と同く招待され又皇太子拿破崙（ナポレオン）の王宮に招待されさり

右使節の佛國政府に申出けるは冬日に至らぞ早速佛蘭西船に乗り其本國に歸る望みふりと

同第四十九號（同年第六月十八日即ち五月二十一日あり）

佛蘭西の條に曰く日本使節を佛蘭西のトイレリーン城に於て佛帝拿破崙に謁見す其詳記は公報モニテウルに記載せり但し其中に歐羅巴諸府の風習に異かる禮式を記載するを見す○大君即ち日本の國土を守護する王の使節頭特派全權の宰相は佛帝に一箇の口上を述べ且大君より書翰れる書翰を手渡せり

其口上中には使節兩國取結べる條約の成就する慶賀及び兩國臣民の交益厚からるべき願望を述べとり又使節頭願ひて曰く佛國の軍艦にて日本に送歸し給もるべしと此に於て佛帝直に左の返答をかせり

朕日本帝の代人に佛國に於て始て面會するを喜悦せり朕其互に取換せさる條約の兩國の爲に幸福かる功績あら

んとを望めり

佛國より在る汝が旅宿より我民心を盡せるを朕より於て疑を容れず又汝が受くる所の饗應又汝が得る所の自由我方より於て取扱ひ宜きを文明ある民の長處より屬するを汝より證すべし

朕汝を軍艦にて本國に送り歸さんとを希ふ汝歐羅巴旅行の愉快ふるを思出すとあらむ朕が意日本と最懇篤に和好せんとの願望ある證據を共に思ひ出すべし

同第五十二號 同年第六月二十八日即六月二日ふり

第三月二十二日荷蘭のコンシル・ゼネラールも同國官府の蒸氣船に乘りヒセ・アドミラールコープマンと共に横濱より出立して第四月三日出島に到著せり其已前第三月十八日コンシル・ゼネラールも出島より横濱に歸著せるなり右蒸氣船の指揮官も此度ミニステル官を免されて英國に歸るアールコック君并に有名の譯官森山多吉郎及び日本從人淵邊德藏を同船に乘せ行けり是れ英國へ公書を齎らすとめアールコックと共に乘船せしめて英國へ旅行せしむる爲なり但し右の三人も同日英國の軍艦に乘移り上海の方に出帆せり是れ來第四月七日驛船に乘りて上海を去り英國に旅行せんが爲なり

同第五十九號（同年第七月二十三日即ち六月二十七日あり）

諸國雜記中より曰く此節荷蘭より於ては尚倫敦より居留せる日本使節を深切より待遇する用意甚しと

原本アムステタム新聞紙第百二號（千八百六十二年第四月十二日即ち文久二年正月三十四日あり）

日本國使節の事

日本の使節も種々の新聞を得んとを好めり使節其旅館の格子窓より日本の旗章を垂れ掛けれど其前より人夥しく集りて絶へざりけり其始め佛國の政府其人の羣集するを制せんとしけれど日本使節曰く夫より及ぼず佛蘭西の人江戸より旗を立つる時も亦然りと佛國政府も之を正理とも思もざれども使節の說より從ふさめ其儘よふし置さり

其使節第一等の人も其同職及ひ書記官の如く一名あり其意を解譯するゟ竹を以て取巻ゝれさる野の中ゟ逍遙する所の君と云へりとれゟても理解するとを得るものゝるゃ

○此使節の爲ゟ別ゟ午膳を設けさるゟ甚と簡易ゝりし其食卓上先一椀の飯の備へ其次水中ゟ煮さる魚を列ずる外別ゟ香湯或た他の食物を加へす其後肉を呈すれども使節の持越せる石灰ゟ似さる粉末を以て悉く其風味を除けり而して此肉も飯ゟ添へて食せり其他一二の果物を食し午膳を終りさり○使節もすべて歐羅巴の巧妙ゝるとを歎美し特ゟ酒を稱美して夥しく三鞭酒を飲みさり

此日の早朝レテムフスの選述家ロシイ君日本使節の前ゟ出るを許され久しく日本語ゟて說話せり而して其話た特ゟ測量學器械學及び星學の論ゝりき

日本使節た一人も婦人を携ふるとゝし又其自ら携ふる所の旅袋甚ど小ゝり然れども增物を入さる箱を數多く持來りゝ之ゝ為ゟマルセイルレより巴黎迄の運賃た外國局より夥しく拂ひさり其數約するゟ三千フランク許ゝり

一人の僧常ゟ使節ゟ附添ひてすべて使節ゟゝきんとする難問を防ぎさり○使節此地ゟ到著せし已來許多の商人等其貨物を賣付んとて尋問ゟ來れり○今早朝も尚一人來り

てハレンレーンの緣飾を二萬二千フランクよ賣付けんと
せり然とも使節手許(モト)よ一金も所持せざりし○人甚と其
譯官を笑へり其譯官中の最も巧者ふる立廣作すらミニス
トレ・プレニポテンチアレと云語をミニスタロン・プレニポ
テンチアロンと通弁しさりと
佛蘭西人も外よ心配するとあるよも拘もらず今他の萬事
を隱し置く日本使節と共よ歡樂を極め佛國より出る新聞
中よ多く此亞細亞人(日本を云ふ)の事を載せ而も實よ善き事の
み記載せり其故も此新聞よも佛國内地の事件を說ゟず且
近時少しく心配の事件あるも記載する程の事ふきを以て
ゟり
佛國内地の制度及ひトウロウセの僧正の令命よ就ても余
之を說くを要せず又外國の事件の如きも尚之を說ゟず是
を以て新聞も只モニテウル會社之を說く時方よ纔よ世人
之を聞くを得べしとす又プロセスミレ會社も新聞を出さ
ざるよ因て世上よ益をふすを少し是以て日本使節も今日
リオンよ逗留せり其使節の名も突もずして言ひ出し得る
者ふく既よ其長きぞりよても衆人の慰とふれり使節曾
てマルセイルレよて鐵道よ上らんとする頃其從者の内大
危篤ふるとを唱る者あり是よ因て其掛りの者之を送るよ

甚さしく心勞しとり使節等既に蘇士の鐵道を旅して來るあれど此度蒸氣車に乘るを初めてに非ず然るに此の如き說起るを頗る解し難しとす使節も容貌宜しきをふし然ども事情を解するを甚ぐ妙かり但し其内にも嫌忌すべき人もあり

二人の日本少年一人を十三歳にして一人を十六歳ふるを善く佛英二國の語に達しされど之を以て其通辯官とふせり

人の通知せる如く日本使節を旅館ロウフレに投宿して此に程能く暮せるとを我聞けり彼肉食中にても煮さる鳥を最好むと見へとり總て食物にも何にても胡椒を夥しく振りけ食するに臨んで小刀及び肉叉子を用ひとり又衣服及び其他の品物も極めて淨潔にし且其日本人を頻りに見んとを好みて絶へす來れる者を全く妨くるとふし

予ゲ尚此に記して告知すべきも使節今晩ロトマゴの練馬場に於て演劇を見物し又明後日も政事役所の公會を見物すべきとふり但しドウルボン宮の廊廡にも惡言をなす者あり此公會もモルニイ氏故に設くる所にして日本使節に佛蘭西政議の模樣と紳士の鈕釦を付けさる外套を服せる狀を見せしめんゲ爲かりと云

海外新聞別集 九月印刷

原本ロッテルダム新聞紙第十二號 千八百六十二年第六月二十三日即文久二年壬戌五月二十六日ヨリ

○日本使節ロッテルダムヨ到着せし事

第六月十四日我五月十七日の早朝より船手仲間の會所ヨ近き上陸場ヨ千萬の人群集して此頃の天氣惡き故日本人兼て取極めさる時刻ヨ倫敦英吉利の大都より此處ヨ來る哉否哉扨と噂しつゝ其使りを待居さり○然るヨ此日本人の乘りさるアルチュノといへる船已ヨヘルンフートスロイスといふ湊ヨ見ゆる趣役方の傳信機ヨて知らせありさり○此噂早速ヨ

鹿特堤の市中より弘まりしろを日本人此湊より獅子と名付さる役方の蒸氣小船より乗り移りヲール子といふ運河を通りて晝頃より此所へ來るおらんと推察せり○此故より珍しき日本人を見んとて諸方より集り來る者多く維廉堤マースの町等其外其近邊を人込み甚しく後れ來る者も此邊より近寄る事能はさる故日本人の通るへき道筋より群集して日本人の鐵道の驛場より行くより大より妨けとおらんと見へさり川の上り口の磴より毛氈及ひ幔木綿等より飾りさる橋を掛けて日本使節の上陸を仕易くかしさり○此上陸場より市中の兩側より生立さる草花を植列ね其中間より彩りさる竿を

正行より立列ね此竿の上より和蘭想國の幟オランニーの幟鹿特堤の幟及ひ日本の幟を翻しさり○此日本の幟も白地より朱を以て日の丸を染めさる者より以前ヨングヘールカッテンデーケの日本より在留せし頃此人より日本の役所より云ひ出し日本帝王ドミカの幟印と差別して日本總國の幟印とせし者あり○偖此兩側より立さる幟の間の道を日本人の入るへき館舍より到るまて毛氈を布き並へさり○加之堤の近邊又も川中等より も夥しき旗幟を飾り立さる三本帆の大船又も蒸氣船あり或も諸所近邊を漕き廻る小船あり又街上より千萬の人群集して少しの隙地もなく家々の軒下より も數多

の士女等集りて實に其形勢(アリサマ)目を驚す許りなりき
第十時半の頃第四歩兵レヂメント隊の第四バタイロン隊
ゴラヾより維廉堤に來りて日本人の入るべき船手仲間の
會所の左側を警衛し又其右側も都府の兵士堅固に警固せ
り○其後斬ありて饗應掛りの役人ロウドンといふ人政事
書付預役バイレーレスと共に同様の出立にて都府年寄役
の案内にて兼て日本人を招待する處と定め置きたる赤書
院に通りたり○此赤書院も此館舍の門戸の通りに頗る立派
に飾り付けたり○此赤書院にも國王の畫像の下に紅の花
形を彫りたる歩障(ツイタテ)を立て其向側にも和蘭と日本の幟を立

たり又此書院の右の端にも和蘭の幟を立て飾り左の端に
も日本使節三人の紋付けたる三本の幟を立て飾りて其美
麗言語にも述ゝたくして此赤書院も實に花堂とも疑ふる
許りなりき○此幟も三本共に地(ナ)も天藍(ソラ)色にて白き紋を付
けたり第一番の使節竹内下野守といへる人の紋も周圍(マハリ)に
林檎の如き者五ツ星の形をなし今一の星も其眞中にあり
て其側に笏(シヤク)の如き者あり第二番の使節松平石見守といへ
る人の紋も大なる木葉三枚列りて其頭に芽あり又第三番
の使節京極能登守といふ人の紋も四ツの菱を四角に組と
る者なり○又其側に日本字にて左の書く如き付たる幟を

立さり

和蘭人日本尊客の為より謹て立之候

又此赤書院の隅より和蘭交易府の幟を飾り立て其外其書院中よりある諸具も或も紅色或も白色或も青色等よて其美麗云もん方ぞなかりけり

諸饗應の役人も暫く此赤書院より日本人の來るを待受けて居さりしゐ俄より千萬の人騷き立て日本人の乘りさる蒸氣小船已より着岸せしといふ噂頻りなりけれも饗應の役人も直様出て見しより日本人甲板の上を彼方此方と歩行き廻り殊より其内の一人直より筆墨等を取出して何角寫し取る様子なりしゝ後より其者の英吉利語よて巧みより話すを聞けも此處よて日本使節を招待する設けの丁寧美麗なる模様を寫し取りさるよ〳〵○此處よて使節始總勢皆暫時上陸の用意を整へさる後和蘭國王の命よて英吉利迄迎より行きさる饗應掛り役人の案内よつれて直より上陸せり此時和蘭の樂人組も歌を謠ひ音樂をなして其上陸を祝ひさり○日本人此上陸場より館舍より到る迄の模様も實より珎しき形勢よて茶色顔の日本人形も小男よて青鼠の上衣を着し數種の彩色よて草花を付けさる野袴を服し白足袋をもき茶色の草履

を用ひ大ふる梟笠を被り奇麗かる大小を帶ひて皆一同ょ
歩兵の行裝ふて出立とる模樣も實ょ奇妙ふる形勢ふりき
其後使節も都府年寄役の案内ょて其從者を引連れて書院
の内ょ通り書院の真中ょ待居とる饗應掛り役人の前ょ來
りて腰を屈め笠を左の手ょ取りて挨拶をふし其後其從者
も皆笠を脫き腰を屈めて役人ょ挨拶をふしとり○偖一同
其座ょ付て後ロウドン（前ょ云へる饗應掛り役人）といふ人日本使節ょ
口上を述へ ホフマンといふ人も此口上を日本語ょ和解し
て使節ょ傳とり○其口上ょも日本使節の今度和蘭國ょ來
りとるとの忝き旨を申述へ和蘭と日本とも余國とも違ひ
舊來の好みもある事ふれも實ょ信友ともいふへき趣を述
へ且右樣の譯柄もある事ふれも今度始ての渡來も彌交り
を厚くするょ甚宜しふふへき旨をも申述へとり○第一番
の使節此口上の趣を篤と聞て直樣其返答をふし和蘭の日
本通詞此返答を和蘭語ょ和解して饗應掛りの役人ょ傳へ
とり偖其口上ょも今度使節渡來ょ就て和蘭ょて深切の取
扱も使節始總體の者殊ょ忝き事ょ存し就ても日本と和蘭
の好みも二百年來のとふれも決して和蘭の事も余國同樣
ょも存しふる旨を申述とり
諸人此使節の返答を聞て兼ての噂とも大ょ相違して日本

人も決して頑固なりさまりて妄なる外國人をいやしむる等の事なく其口上も取廻もしし等も實に丁寧なる行居き理非も善惡も能く辨しし居る者といふとを始て承知せり○殊なる使節三人の饗應掛り役人なる應接せしし模樣並都府年寄役なる深切なる應對をなしさる模樣も實なる日本の能く開さる證據の第一なりき○其後直樣日本書記方の一人筆墨を以て立ち和蘭人なる向て聊ら恐るゝ氣色もなく此書院の飾り立の模樣歸著の上委細日本大君（將軍家の事）へ申上度候間一く承知致度旨を申述て此飾立の寫取りなる取掛りさり○此一人の者此書院なる誥合せさる諸役人の役名を承知致しし且其壁際なる掛りさる畫像も何人の像なるや承知致し度旨をも懇望しさり○其側なる居さる人委敷其返答を爲して彼是の事を委細なる話しさり○其後彼一人其側の人なる向て我等此所なる來りて數多の美麗なる貴女子を見さる事も決して忘さる樣記錄し置くへしと云ふさり

偖其後日本人なる向て暫時休息しても如何哉と尋ねて日本人の常なる好める茶菓子其外煙草道具等を出して頗る懇切の取持を爲しさり○但し使節始總體旅行の勞れなて早く海牙（和蘭の都なて國王の居る所）なる到りて休息しさき模樣あるを見取りし故兼て用意し置きさる乘車を與へて之なる乘らせさり○

第一番の乘車より日本の使節三人並先年日本よりて交易奉行の役を勤めさるドンクルキュルシュス乘り第二番の乘[illegible]より以前日本より行て其土人と交りさる人より當時海軍甲比丹を勤むるペルスレーケン乘り第三番の乘車よりホフマンと云へる學頭第四番の車より屬國掛りの大役人ミルデンと云へる人乘り又日本使節より從ふさる大役人も四五人づゝ分れくより此四の車より乘り其外の日本人又も和蘭人も此余の車より乘りさり

凡第一時頃より使節の車鐵道の問屋場より到りしより其所の役人等大より此來着を祝しさり其外此鹿特堤の道筋よりも此道筋の支配役等皆其來着を祝しさり

暫くありて最早蒸氣車を出さんと思ひしより平日通行の蒸氣車第十二時半過より通るよしを聞て暫時待合せさり偖其待合せの間使節三人も第一番の番部屋より入りて其所よりある丸き卓子より向て場所取り其外の大勢の人も壁際より場取り其外殘りの者も第二番の番部屋より入りて坐しさり

此土地の士女等日本人を見んとて此所より來りしより此問屋場の支配役人等少しも制するとなく此内より入りて日本人を見る事を許せし故より千萬人の士女殊より第二番の番部屋より入り來りて或も日本人と名札を取遣りするもあり或も

手真似をかしく話をするもあり或は和蘭語英吉利語等を知りたる日本人は頻りに其語を用ひて話抔をかし又日本人に奇妙なる色の紙或は日本の烟草其外珍器珍物等を取出して和蘭人に遣り其代りに和蘭人よりは名札或は巻烟草其外夫に附きたる道具等を日本人に送り抔して實に其親しき形勢(アリサ)は十年も二十年も交りたる人と聊も異なる模様も見へざりけり

右様の事にて一時斗も休息して茶を飲み烟草を吸ひたる後蒸氣車を出すといふ相圖ありし故第二時少し過きの頃使節等頗る大悦の模様にて結構なる蒸氣車に乘り海牙を

さして乘り出しさり

蒸氣車にも問屋場にも和蘭と日本の幟を立さり

日本使節其外夫に從へる役人の役名並姓名等左の如し

第一正使　竹内下野守
第二副使　松平石見守
第三組頭　柴田貞太郎
第四勘定　日高圭三郎
第五目付　京極能登守
第六徒目付　福田作太郎
第七調役　水品樂太郎

第八調役　岡崎藤左衛門
第九普請役　益頭駿次郎
第十定役　上田友助
第十一定役　森　鉢太郎
第十二同心　齋藤大之進
第十三小人目付　高松彦三郎
第十四小人目付　山田八郎
第十五通詞　福地源一郎
第十六通詞　立　廣作

其外翻譯方醫療方兼帶之者兩人并醫師兩人其外使節等の

家來十一人贈物宰領方五人都合三十五人あり（諸役の頭序等原文甚誤れり）總て日本使節旅行入用を皆其土地くくよて賄ふさり佛蘭西の巴勒（パリス）大都許よて使節の入用日く凡四萬五千フランク（凡我四千八百四十三兩程）より五萬フランク（凡我五千三百八十一兩程）位ありしよし夫故佛蘭西人民後よも此入用を出す事を嫌ひけれど日本人も甚ど氣の毒よ思ふて先くよ足を進むる事を好まさりしよし噂ありき

海牙よ到着せしより逗留中の事

第十二時頃鹿特堤より日本の使節一時半許鹿特堤よ留るべけれど第一時より第二時の間よも海牙の都よ到るべし

といふ知らせありさり夫もへ海牙よりて追くよ其待請の用意をふして問屋場の前よ左の如く書付さる幟を立てさり

和蘭の都よて日本尊客の爲よ謹で之を立て候

其後直よ都府年寄役饗應役并評議役等諸人問屋場よ集り其外海軍掛執政都府の軍奉行並物頭（ヤルブレニンキ）といへる人其外政事掛并軍事掛の諸人等も集れり○使節同勢の通行すべき道筋よもグレナデール（備名）のバタイロン四隊と並よヤーゲルといへる隊備へヒューゲンスプレイン（備名）のレスカドロン四隊備と云へる處よもダラゴンテルつさり○其道筋の飾り立實よ善美を盡せしゆへよ其見物人夥しくベルンヒュエと云へる旅館迄も實よ寸隙の地もかりし程ありき○使節の鹿特堤より來る事遲刻せしゆへよや見物の人彌増よふへて其羣集混雜云んかぞかりけり○其後鹿特堤より海牙の問屋支配役人よ使節の乘りさる蒸氣車の出立せし故第三時の頃よも海牙の都よ到著すべしといふ相圖ありさり

斯て日本使節等海牙の問屋場よ到著し其前よて蒸氣車よ

り下り案内よつれて第一番の番部屋よ入りけれど都府年寄役の者日本使節よ向て能こそ渡來しさりと挨拶し終りて市中總體の口上おりとて使節等海牙府よ在留するとき也都下の者總體の大悅斜おらずと申述べ和蘭の日本通詞此口上を日本語よ和解して使節等よ傳へけれど第一番の使節其返答の爲よ丁寧よ腰を屈めさり

其後暫くありて使節等夫〻乘車よ乘りさり○第一番の車よも都府の軍奉行并都府年寄役乘り其外の車よも役人等使節と共よ乘りて丁寧おる取持をおし又其外の車よも使節よ從へる諸役人從僕等乘れり○夫より此行列ワーゲン町ヱイ子町ホーグ町ブラーツランゲフエーフルベルクコルテ.フォールホウト及びボスカント抔といへる處を通りて行きしよ樂人組も其脇よ付て頻りよ悅もしき音樂をおし又道筋よも千萬の見物人群集して悅もしき聲を發して此行列を祝ひさり○日本人の珍しき顏色容貌よも實よ和蘭人一人も驚ろざる者もおろろし程おり但し又日本人の才智勝れさる事よも誰も能く氣附さり

偖其内よベルレヒユエといへる旅館よ著きさりしゆへ役人等使節を案内して其館内よ通しさり○其後役人も暫時其館内よ留り居さりしゆ使節等一同今日の取持方の行屆

きさるを滿足せし樣子を見て其後此旅館を去りさり○殊
よ此旅館の飾り立如何よも結構美麗を盡してありしゆへ
日本人の滿足斜ならざりき○此館内の尤も表立さる坐敷
も殊よ結構ふる者よて其飾立も一形ならず或も千萬種の
美花を以て飾り又も名人の作よて草花の彫物をふし加之
色〻の旗幟等を立て其間の處よもオラニー家（當時の和蘭國王の家族）
歷代の畫像を掛け其外廊下階子も勿論館舍の表構よ至る
迄殘る處ふく草花を以て飾り此表構の上よも日本と和蘭
の幟を飜しさり○其外海牙よ來著より旅館よ入る迄の間
樂人組の者大鐘を打ち之よ合せて面白き歌を謠ふて祝し

さり○行列の前後を警衛して旅館迄到りさる騎兵隊も使
節到著の後直よ歸り唯使節警衛の爲よ設けさる番兵隊の
み此旅館よ留れり○英吉利佛蘭西等よても其饗應よ善美
を盡し日本人を悅もせし事數ろぎりふろるべけれども其
取持の深切よして實よ心底より出さる饗應といふも恐く
も我和蘭の如き處もふろるべしと思もる
偖日本人此旅館よ着て二日の間休息をふし十七日（我五月二十日）
より諸處の表立さる場所を見物よ出さり其話次よ委し
十七日（我五月二十日）も和蘭王妃の誕生日ふるゆへ球投遊びの場
所よて夥しき人集りて軍の狂言をふしさりしよ使節等も

乘車ゟ乘りて其祝ひの場所を見物しさり○此時騎兵隊使節等の嚮導とゟりて其旅館より出て此狂言終りて後又此使節等を引連れて本の旅館ゟ歸れり○其次ゟ使節等珎物奇器或ゝ圖畫等を納めさる寶庫を見物せり○其暮方ゟ至りて森林の中ゟ暗夜も白晝と疑ゝる程の萬燈をとゞしブリー子ンといふ人日本人を誘ひ萬人の集りさる天幕の内ゟ導ひて見物せしめさり○日本人ゝ此十七日を今日迄の中ゟて一番悦ゝしき日ゟりと云ひ又殊ゟ好て婦女子と交り遊びて色〻の物を取らへ拵しさり○又其後再び萬燈を見物しゝ本の旅館ゟ歸りさり

十八日（我十一月五日）ゟゝ使節等二箇所の製造場を見物せり其第一の製造場ゝエントホウフェンといふ人の持場ゟり○此製造場の内ゟゝ諸處ゟ日本人饗應の爲ゟ色〻の事を書付けさる者杯を置き又其外ゟゝ日本と和蘭の幟を立さり○偖使節等ペルスレイケントンクルキユルシュスシュツレル及び都府平寄役等の案内ゟつれて此製造場ゟ來りけれゝ持主エントホウフェン此輩を招待しさり此製造場の内ゟある住居家の高樓ゟて暫時休息ゟし日本の茶ゟゝを出せし後暫くありて重荷を揚る爲ゟ鐵ゟて作りさる桔槔（ハネツルベ）を使節等ゟ見物させ其外追〻ゟ大ゟる鑄物部

屋よて日本人の感心する様ふる事のみを見せさり○又小き鑄物部屋よも使節を誘ひ行き謹んて日本人よ服すといふ語并日本尊客の渡來を祝すと云ふ語を文字よ鑄出しさりしろ其手速(ハヤ)ふる事よた日本人一方ふらず謄をつぶし殊よ桔槔の速ろふる働を見て其働く理ふどを詳よ聞取りし故よ其驚き實よ尋常よも見へさりけり

右様色〻の珍らしき物拵を見物させさる後又使節等を高樓よ連行て此處よて暫時休息をさせさりしよ其時使節を始め總勢の者共見物しさる物の話をして皆褒めざる者もふろりけり○其後此製造場よての取持頗る結構ふるを謝せんとて使節よ附添居さる和蘭の役人等其姓名并使節等の姓名をエントホウフエンの内室の所持しさる手扣帳よ書付けさり

此事終りて始め入來りさる時分の通りよ頗る結構ふる取扱を受けて此製造場を去りさり○偖今此製造場を去る時分使節等并附添居さる役人共皆一同よ取持の深切よ行屆きさる禮を丁寧よ述べさり

又第二番の製造場も尤大ふる者よて其名もプリンスフアン、オラニーと云へり○此製造場よても使節等其門口迄到りし時分此持主ホツといふ人とクーヲルデンといふ人其

所迄迎に出さり○偖其處より此持主と此場所の造營方の者とにて使節等を誘ふて道具仕掛けの設けある部屋に入れさり○此處に入り廻り廊下を通りて其所に於て廻り板の上にて椿車の心木を造るを見て使節等大に之に感心し其後又第二番の蒸氣道具のある處に到りて其道具を見物しさり○偖其次に鑄物場に到りしふ此處にて鑄物師使節等の見る前にて速に謹て日本人に服すといふ語を文字に鑄出しさり○偖其文字を鑄出しさる節其仕事をかしさる鑄物師等皆大悦の模樣にてフーラフーラ祝ひ言葉ふりと祝ひさり○又其後第三番の蒸氣道具及ひ鐵道に設け置く橋を造るを見物し又其蒸氣仕掛の道具等を以て頗る重き荷物等を速に二階三階等に上るを見て使節等殊に驚き感しさる摸樣ふりき○其外又使節等の見る前にて莫大ふる車の心木を蒸氣道具にて造作もふく此所(コヽカシコ)彼所に動ラし或は桔槔にて高く引上け抑ふして見物せしめさり○斯て色〻の見物も濟しさた使節等も此製造場の持主に丁寧に禮を述へ其姓名を外國人姓名錄といへる帳面に記し附添ふさる役人等此口上を和蘭語に和解して持主に傳けれた職人等一同に聲を揃て能く參られて大悦ふりと返答するを聞つゝ使節等一同此處を出さり

十九日（我五月廿二日）また使節等大砲の鑄造場を見物に行きけれど此處にても軍事掛り執政役使節等を招待し夫より鑄造場に連れ行き一挺の古き大砲を出して之を鎔かし夫に青銅を加へて直樣に一挺の新砲を鑄て見せさり但筒樣の事も今迄外國にて數度仕損じさりしが和蘭にても聊も仕損ずる事なく十分能く出來さり○其外日本人を引連れて此製造場中殘る處なく見物させしかも使節等始一同皆滿足せし趣を告げ厚く禮を述て去れり

其次に使節等ミーリングといへる人の持てる石版場を見物に行き此處にて暫く留り居て圖畫を石板に押すを見殊に圖畫の彩り方種々の色一時に出來るを見て大に感心しさり

其後も仍日本人石板の道具仕掛を見物せんとを懇望せしゆへ色々の道具を十分に見せしうゑ使節等も大に滿足しさる模樣にて其中にて三四人の者紙を取り各自分々々の書判を書きしゆへ夫を直樣日本の紙に押して其當人等に與へさり○斯くて日本人も其滿足一方ならずと見へ再三禮を述て遂に此場を出さり

晝後に至りて使節等又地形寫し取場に行きしに此處にても軍事掛り執政役の者此輩を招待して色々の地形を寫し

取る模様を見物させさり
其外又諸處を見物せんとてバールマンといふ人の持てる
諸品の製造場ベーといふ人の持てる時計の製造場或もメ
ーヒスといふ人の持てる燈籠の製造場並ニーツホフと
いへる人の持場ある書物賣買場等ゟ行きて色〻の珍物珍
器を見物せり
其後使節兩人並ゟ夫ゟ從へる輩饗應掛り役人ゟ誘はれて
セーフェンゲンといふ浴場ゟ行き又ゼーヒストと名付け
る館舍ゟ行きしふ此處ゟても日本人の來るを見て直樣
日本の幟を立さり斯て此處ゟ暫く留り休息をふして和蘭
の海魚を見物せし後パットポイスといふ處を通りて海牙の
都ゟ歸りさり

使節等鹿特堤を見物せし事

海牙より便りありて策六月廿日（我五月廿三日）ゟ日本人鹿特堤を
見物ゟ參るべしと告け來りしゟ其當日ゟも早朝より日
本人を見物せんとて悦ひ勇んて來る者其數を知らず實ゟ
其群集云ん方ぞなかりけり○右樣ゟ和蘭人等日本人の渡
來せしを悦んて勇み立つ所謂も歐羅巴（エウロツパ）ゟ數多の强國あり
と雖とも二百年來日本人と交りを結び居る國も和蘭の外
一ヶ國もなきゞ故なるべし○問屋場の所ゟも日本と和蘭の

幟を立置けれど其處よも尤多くの人群集して恰も敵軍の十重二十重よ圍みさるゝ如く見へさり○又日本人の通るべき道筋よも都府年寄役并奉行評議役或も鐵道掛り諸役人其外今度饗應の事よ預る諸人悉く集りさり○然るよ第十時の頃兼て國王より日本人案内方を云付られさる役人共使節三人並よ夫よ從へる同勢の内十三人の者共を誘ひ尋常の蒸氣車よ乘りて海牙より來れり但し此車も王家所持の車ふり○斯て一同の者直樣蒸氣車より下りけれど此鹿特堤支配の諸役人使節等能くこを參られさりといふ挨拶を述へ且都府年寄役を總代として和蘭と日本も舊來交り厚き國ふれど今日使節等此處よ參られさるも此地の者一同殊よ大悅よ堪へさる事ふりといふ事を述べ通詞の者此口上を日本語よ和解して使節等よ傳へけれも上席の使節竹内下野守といへる者直樣忝く存ると云ふ返答を丁寧よふしさり○偖此挨拶も濟けれど都府年寄役も使節等の案内とふりて使節等を兼て用意し置きさる乘車よ乘せコールシンゲルといふ處より鹿特堤の市中を通りてボームピーといふ處よ到り和蘭蒸氣船仲間の會所の前ふる濱邊よ兼て日本人を乘する爲よ用意し置きさる和蘭の船貸仲間の持てるヨインフィッレといへる船よ使節等を乘せて直

様此濱邊を乘り出しさり偖此船も第一に目立場所に日本の幟を立て其外の場所にも日本の幟其外和蘭オランヒー或も鹿特堤等の幟を頗る奇麗に立飾りさる者にて實に目を驚らす許の美船かりき

此處よりフェーノールドに到る迄商賣方評議仲間並に製造方評議仲間の者等此使節の案内とかりて行きしが其節使節等に向て此度貴君等の鹿特堤に來り給ひしも後來日本と和蘭の交易の盛なかる大本かりとて鹿特堤の商人等一同に別て大悦ふ存すると云ければ使節等此口上を聞て我等此鹿特堤に來りて其滿足斜からず且此以後日本と和蘭の交易も相違かく日々に盛かるべしと存すると返答し饗けり

偖フェーノールドにても其湊にある鍛冶場の脇に和蘭總國の幟を始め其外鹿特堤並日本の幟等を立て飾り又其側かる打開けさる地面にも大ひかる天幕を立て其外色〻善美を盡して飾りさり○偖其天幕の前面の頂きにも幟を立て其幟にも上の方に日本の紋を青色にて二附け其下の方にも商賣仲間の印を附け草花を畫き且日本字にて能く來れり能く來れりといふ事を書さり○又其下に金字にて和蘭の蒸氣船仲間と書付さる幟を懸け此幟の片端にも和蘭と

名つけさる紋板（紋の附さるを附け又今一ッの片端よも日本板あるべし）と名附けさる紋版を懸けさり○又此天幕の後の方よも和蘭の紋を付けさる幟を立て其外天幕の前後左右よ諸外國の幟を飜し又其中よも頗る立派なる數物を敷き其上よも立派なる天井を張り椅子手摺り椅子或卓子等を置き其脇よも草花等を植へ其中よも饗應の爲よ美酒佳肴を備へと卓子を設け加之日本人よ烟草を吸もする為とて〻子チヤ燈といへる彩色しさる燈籠を設しゆへ此天幕も實よ美麗を盡しさる書院の如くよして人く感せぬ者もなりけり○又其端の處よも普魯士國（プロイセン）の小船ありて其中よも日耳曼諸國の幟を立て又其外此所彼所よ數種の幟（ほり）翻りさり斯て右樣日本人饗應の設けも全備せしうもフューノールドの士女等夥しく日本人の來着を見んとて疾くより天幕の近邊を被方此方と徘徊せる内よ鹿特堤（ロッテルダム）より大砲の相圖よて日本人の乘りさるヨインフィッレといふ船唯今濱邊を出帆せしといふ知らせありけり○此大砲の音を聞て見物の爲よ寄り集りさる人濱邊よ出て今や遅しと待ける内よ數艘の小船よ數多の人乘り込んて來るを見れも果して日本人商賣方評議仲間并製造方評議仲間等の案内よて濱邊よ著き直樣其處より上陸しさり○斯くて使節等一同案内よ

つれて天幕の處より行き使節三人も手招り椅子のある處より坊取り其外一同の者も皆其周圍(まわり)より場取りて直樣烟草道具を出して烟草を吸ひ此處にて暫く休息をなしさり○偖其休息の間より千萬の人日本人を見んとて其所より集り來りけれも日本人も頗る大悦の模樣にて和蘭人と或も手眞似ふどをなし或も巧みからねど和蘭語英吉利語抔を以て心易けに話抔なし暫くありて後數種の道具仕掛の雛形抔を見物に行きしに蒸氣船仲間の製造方支配のオールトといへる人此處にて道具術に就て日本人に色々話し聞せしうむ日本人も大に之に感心しけり○斯くて其見物も濟しゆへ使節の來渡を祝ふ爲にとて饗應の酒食を出しけれも使節等一同此處にて其饗應に預り終りて頗る丁寧に腰を屈めて其禮を述べ夫より皆一同に散歩がらに細工場を見物に出るけさり

斯くて寮内につれて先第一番に鍛冶場に到り此處にて鍛冶師等大なる鐵塊を蒸氣仕掛の大槌にて打碎きて色々の道具を製せるを見さり○又其後鑄物場に到りけれど此場の鑄物師等頗る奇なる仕掛にて鎔解しさる鐵塊も地中より湧き出るが如くなして(日本人ヱーノールトに能く來りさりといふを文字に鑄出して見せけれど日本人一形な

らず感心して附添ふさるトンクルキュルエスを以てヲールトは色く鑄物の事を委細は聞しうむヲールトも至りて丁寧は其返答ふせしゆへ日本人一同頗る大悅しさる模樣は て歸りさり○其他蒸氣仕掛の圖畫場或は其外を見物し其後鈍道具場は到り此處はて細工人此鈍道具はて暫時間は大ふる鐵屑を挽くを見て殊は感心し此道具の處は暫時留りて此鈍道具はても尋常の鈍道具は比ぶれも半分の時は て同し分量の鐵屑を挽くといふを聞て大は驚き感しさり○其外ゼイランドといへる船の螺旋或はプリンセスマリーと云ふ百二十馬力の蒸氣船とギラカオといふ二百五十馬力の蒸氣船を望見し並當時フリンレンゲレはて製造は掛り居さる船等を見物し殊は蒸氣舌（蒸氣道具はきと云る者）も使節等頗る念を入れて穿鑿しさり○其外案内はつれて此所彼所を見物は行きしゞ使節等感心仰天せざる處も一ヶ所もなりけり

斯て散歩も濟けれも又案内はつれて天幕の處は歸り此場はて又暫時休息をしさりしは彼のオールトといふ人別離の爲はとて又酒を出して使節等を取持ち使節等は向て日本と和蘭も數百年來好み厚き國なれど此度の渡來も余國人とも違ひ別て大悅は存す云々といふ事を云けれど使節

等此口上を聞て貴諭の如く實ゝ日本人と和蘭人とも舊來の信友とも稱すべき者ふれも以後千萬歳和親を破らず永く交りを結ぐんとを冀ふと返答して歸りけり

偖第一時の頃日本人の乘りさるコインゴレといふ船エイーノールドより歸り來りて其後又乘車ゝ乘りてオーくテレーキ、ストームゲマールと云ふ蒸氣仕掛の道具場所を遊覽し此處ゝて色〻の蒸氣仕掛の道具の働きを見て怜悧日本人も速ゝ其理を解し頗る之ゝ感心せり○此時製造方支配の者ロールセ并ゝタックといふ人日本人ゝ此蒸氣の働きの理を詳ゝ諭しさり

此蒸氣仕掛の道具を遊覽して歸りさる後啞聾の子等を教導する學問所を見物ゝ行きさり○此處ゝても此學問所支配の役人使節等をヒルスといへる大學頭の部屋ゝ招待しさり○偖此處ゝて大學頭も使節等ゝ和蘭ゝて此學問所を建る和蘭人の仁心の大ふる所を詳ゝ云ひ聞らせ夫より啞或も聾の子供ゝ唇の動らし樣或も顏面の模樣抔ゝて物事を教諭するを見せ又其後大學頭も使節等を誘引して今普請ゝ掛り居る所の學問部屋等を見物させ此處ゝ使節等を暫く留らせて十歳斗の小兒一人を使節等の前ゝ出して鹿特堤の聾啞學問所の諸生等一同日本諸君の渡來ゝ就て大

悅斜ならず殊ゑ此學問所を見物ゑ來り玉ひしも我等左滿足する所なりといふ事を板の上ゑ書付させて見せ其外上達しさる諸生兩三人を使節の前ゑ出して日本の地理の事を板の上ゑ書付させ拵して見せけれも使節等一同頗る仰天せし形勢ゑて如何して啞聾拵ゑ右樣の事を教込さる者ある歟國王の仁政も勿論和蘭人の仁心も實ゑ感心するゑ堪る事なり拵と互ゑ話し殊ゑ小兒の側ゑ來り可愛らしき童哉と頻りゑ之を褒立さり○此學問所ゑ來り居さる士女等皆此日本人の頻りゑ感心するを聞き居さり○右樣の見物も濟し故使節等ゑ童謠其外民間の謠拵を吟して聞うせしりも使節等一同啞聾の小兒の教諭行屆きし事も勿論其外謠の事等ゑ就ても總て感心ゑ堪る許なりと云ひ厚く其禮を述さり○斯くて何も角も全く濟し故外國人姓名錄といへる帳面を出して使節等ゑ渡せしりむ使節等一同其姓名を此帳面ゑ書きのせ腰を屈めて厚く禮を述つゝ此學問所を出さりさり

其次ゑ使節等コールシンゲルと云ふ處の病院（貧窮なる病人を養ひ療治する處）を見物ゑ行きしゑモレワーテルといふ人の娘等出迎ふて使節等を前坐敷ゑ案内し此處ゑて饗應の爲ゑとて香花を出しけれむ使節等其花の香しき匂を嗅で頗る悅しげ

より見へさりけり○斯くてモレワートルの娘等も直様此使節等を誘引して蒸氣道具を見せんとて此坐敷より下の方より降り此處より蒸氣仕掛けの道具を以て病人を高樓より造作もなく引上る道具を見せ其次よも又製造場より連れ行けれど此處よりもプロウ、ヒルといふ人此製藥の時其部屋を竈にて溫める仕方を使節等に委しく話し聞かせさり○其次よも使節等を分析所より案内して此處を見物させ此處より其脇より立て添ふさる處より連れ行きて解體部屋并琉黄湯の浴場を見物させ又其次よも外料の療治部屋より旋動する寐床を見物させ夫より又評議部屋より誘引して硝子(ヒイドロ)の箱の中より入置きさる道具類其外圖畫等を見物させさりけれも使節より附添ふさる日本の醫師等總て感心せぬ事もなかりけり○其外又使節等より蒸氣風呂或も病人部屋抔をも見せ斯て諸見物も全く濟しかも使節等モレワーテルの部屋を見物し此處より丁寧より暇乞をかして出去けり

其次ふもホイマンと云る學問所の彫刻術の藝古所其外諸細工術の稽古所等を見物より行きけれも其途中より市中の人日本人を見んとて其同勢より附添ひ歩行く者幾千人といふ數を知らず實より勇ましき形勢なりけり○偖此稽古所よりも此學問所の支配役ラツメといふ人並其添役等使節等

を招待して先門第一番に日本の陶器を夥しく集めさる部屋に連行きてこれを見せ其次に畫像部屋に案内して色々の畫像を見せ又其次に此學問所の大繪圖を入れ置きさる部屋並其雛形を納めさる部屋に連れ行き拵へけれと日本人滿足斜からずして此處を出去りさり

斯て此見物も濟しゆへ使節等此處を去りてバタヲイア・ゲノートレカップと云へる館舍に行きけれど此處にても其支配役の人々使節等を招待しギタイパント並にカーレンと云へる醫師等此使節等の案内とかりて諸坐敷を見物させ其後使節等に烟草を吸もしめ又其姓名を姓名禄に書付させ其後又使節に從へる人々を其隣部屋に連れ行き此部屋を暗くして其内に色々の物を寫して見せけれと日本人頗る面白く覺へさりき○其後諸部屋にある道具等を見せけれと使節等悉く心感せざる事なく殊にも鋸ぎり引する楷車并水車の働き等を見て其力の大にして且速なる事を驚ろき又エレキテルの道具を見せ或は地球儀を廻して拵へて見せけれと日本人速に日本國のある場所を見出し得さり其次にも又ジステレーキストームゲマールといへる蒸氣仕掛けの道具場を見物に行き此處にて蒸氣仕掛の車にて水を汲み盡すを見或は其外蒸氣道具の數種の働きを見さ

り○此時ローセタックと云へる二人の者此蒸氣道具の働きの理を日本人よ委しく云ひ聞ろせけれも日本人すとぶる感ぜざる者もあろりけり○斯て此處の見物も大抵濟し故使節等又乘車よ乘りて和蘭船手仲間の會所前出すよ行きけれを此處よて案内をあしさる役人并評儀役の人く并オールといへる人く相伴とありて使節等よ食事をあさしめさり

偖此會所の赤書院よ行きけれも此書院よも先日の如く仍色くの美麗ある飾り立ありて其上よ三ツの卓子を置き其真中の卓子を使節の卓子とあし其外の二ツの卓子も外役人等の卓子とあして是よも數種の飾り付をあし或も亞細亞の草花等を飾り付けあどして其華麗實よ云ん方ぞあろりけり○斯て此處よて又年寄役の者使節等よ茶を出し蒸餅抹を食せしめて後年寄役の者使節等よ向て鹿特堤よても諸君希くも我等ろ懇切の情を汲取りて此後和蘭と日本の交り益厚く日本の商賣船鹿特堤の湊よ絶へざる樣よ致されよと云けれも使節此口上を聞て和蘭人の深切ある取持の禮を述べ加之以來和蘭と日本の親睦益厚くあらん事も殊よ冀ふ所ありといふ返答をあしさり○斯て色くの話も濟けれも年寄役の者も別れの爲よとて又膳部を出し暫

くありて食事も濟し故使節等暇を告げて此處を去りけれ
ど諸人フーラフーラと三度祝しとり
偖使節等此處を去りし時又奇獸の飼置場よりて千萬種
の奇獸を見物し又トルレスといへる有名かる詩人の像
并其外畫工或た小説物著述物拓の立派かる像を見物すへ
しと勸めけれた是より直よ乘車よ乘りて奇獸の飼置場よ
と急きけり
是まて諸所の見物の度毎よ日本人を見んとて來る和蘭の
士女等羣集せざる處とてた一ヶ所もかりけれ共殊よ此奇
獸の飼置場よての群集といふた言語よも紙上よも述べ盡
されざる程の事よて實よ其近邊よてた一歩もたこぶ事能
もさる程かりき○日本人た此士女等の群集するを甚快き
事よ思ひされども余り甚しき群集よて欝陶敷き故よ少し
く慰みよてもかして氣を引立んと思ひしよや種々の物を
取り出して婦女小兒等よ與へ拓して慰みとり
斯て夫れより使節等たマルチンといへる人の支配せる客
館よ行きけれた此客館の諸役人使節等を招待し殊よ三人
の使節をた丁寧よ取り扱ふて此客館の造營を企てとる仲
間より出せる書翰を使節よ出しとり○通詞此書翰を日本
語よ和解して使節よ與へけれど使節此書翰を一見して辱

き趣を述へさり○偖其應對も濟けれと使節等と各煙草道具を取り出して烟草を吸ひ休し此處より暫く休息して慰みさり

偖此處より暫時休息ありさる後使節等とマルチン并其外支配役人等の案内よつれて園庭より飼ひ置さる數多の奇獸を見んとて此處より行き獅子、虎、豹、或と象、猿其外奇鳥等を見物しさり○其外又此處より人間其外活物等を喰ふ獸をも飼ひ置きてありしゆへ日本人も頗る仰天せし模様ありき○然るより前より記せし如く日本人等と和蘭人の見物より來るを甚悦へる模様ありし故此處よりても日本人を見物より來る者幾千萬といふ數を知らず實より一歩を進むる事も甚難義より覺へし程ありき去れとも日本人も此園庭よりて數百種の奇獸等を見物せし故斜ならず悦びさり○斯て此見物も濟しし故使節等もマルチンの任家の前よりある築山より行きれけて此處より支配役人其外數多の婦女子等集り來りて使節等と共より頗る面白ろき慰みをありさり○偖色くの慰みをありさる後使節等マルチンの内室の畫きさる數多の畫ありを見てありし内より追く時刻も移し故一同此場を去る用意をありさり

此の如き丁寧懇切ある取持ありし故上席の使節と通詞を

以て案内の人より種々厚き禮を述べ其外此饗應より出さる役人總體よりも宜敷く傳言し呉れよと賴みさり

偖此處より使節等又乘車より乘りて其近邊よりある間屋場の方より行き又此場處よりて暫時休息ふして使節等と饗應の役人等と互より懇切より暇を告け夫れより使節等一同頗る大悦せし模樣よりて王車より乘りてうへり行きけり斯くて引車（蒸氣車の前車）よりても笛を吹て日本使節鹿特堤の遊覽も全く濟さり

といふ事を知らせさり

諸處遊覽中數多の見物人日本人より附き添ふて日本人の遊覽を祝しとる故使節一形ふらず大悦せし模樣ありき

海牙逗より留中第六月二十一日（我五月廿四日）後の事

日本使節もボイテンホフといへる處の役所より和蘭の外國掛り執政役と會合談話せんとて廿一日廿二日の兩日共夕方より到りて使節其外同勢三輛の車より乘りて此役所より行きさり○二十一日より也使節等議政上院と議政下院（上下院共より政事を論議する役名）の二部屋より暫くつゝ留り居さり○使節等上院の部屋を去りて後前坐敷より暫くの間此上院の上席ふるとリプセといへる人と談話し此談話も程ふく濟けれも使節等も此饗應の行居きさる禮を述へ且スヰンデレンといへる人の深切ふる口上の辱きを謝し其外向後も日本と和蘭

と益く親しく交りさき趣を述へ懇ゑ暇を告げて夫より下院の部屋ゑ到りさり○此部屋よりて國益掛りの役人使節等を招待して一ッの部屋ゑ案内し勘定掛り執政役ふるベッといふ人使節等ゑ入來の挨拶をふしさり○使節等此部屋ゑ暫く留りて此諸坐敷の立方并下院の人〻の會合の様子等を聞し後又始めの如く國益方の役人ゑ誘それて此場を去りさり

又來る廿五日我五月廿八日ゑも使節同勢の内十五人之者俺特坦アムステルダム和蘭の第一の大都但國王の居る處ゑ為らすゑ行きて其地の表立さる場所并其近郊等をも遊覽すべしといふ話あり

又廿三日我五月廿六日ゑも外國掛り執政役ソムフレッフといふ人セーフェニンケンの浴館ゑて日本人ゑ浴饗應の膳部を出さんとて其相伴の為ゑ執政役諸人饗應掛り役人並奉行物頭都府年寄役も勿論諸外國の使節をも招く筈ふるよし

又近日の内日本使節等和蘭の諸部來丁亞零鳥特立痾威立レイデンアールンウトレクトオフヲイッヤ塞并非里薩フリースランドなどを遊覽すべしと云ふ話あり

又近日の内ゑ海軍掛り執政役カッテンデーケといふ人使節等を饗應せんとて既ゑ其邸宅の飾り付も勿論園庭ゑも一の美麗ふる堂上を立て其内ゑて樂人組ゑ音樂を奏せしむる用意をふし居るよし

日本使節和蘭國王ゟ呈せんとて本國より齎し來りゝる品物左の如し○染めゝる日本絹十卷○無地の日本絹十卷○華麗ゟる鞍其外馬具一式○頗高價ゟる太刀二振ゟるよし殊ゟ日本ゟて斯の如き太刀を帶るゝ西洋ゟて政事軍事等ゟ大功ありて高貴の位ゟ登りし人の十字の印を付るゝ同様ゟる事のよしゟり

又日本入鳥特立（ウトレクト）を遊覽ゟ行くときゝ其地ゟて和蘭國の貨幣を見せ並賃幣の製造をも見物させ且つペンニングといふ青銅の錢ゟ日本字を打出して使節等ゟ見せんとて其用意をゟし居るゝよしゟり

海外新聞別集九月印刷

原本ロッテルダム新聞紙第十三號（千八百六十二年第七月七日即ち文久二年壬戌六月十一日ゟり）

○日本國使節の事

日本使節我荷蘭國ゟ來り心地よしゝと思そんゝ疑を容るべゝらず勿論是まで佛蘭西英吉利ゟ於ても甚丁寧ゟる取扱を受けとり然れども荷蘭ゟ於ての取扱ゝ其親切ゟることゝ殊更ゟ勝れゝり

右使節の人才秀でし事と又其人ゝの何時何處ゟても暫の間も銘ゝの職務を怠らず擧動穩靜ゟる事ゟゝ衆人皆之ゟ

眼を付しあり又其下役等も諸事見聞しさる事を委しく書留め本國人民の爲め利益を取らんと思ひ問斷なく勉强せり右の付一度往きて不足あるとあどあれば或も今一度往き度よしを乞ひ或も別人を遣しく委しくこを吟味するあり夫故使節の同勢同日の數箇の別れ諸方の分散せり假令ば本使の公用の外出せし時も其余の者も鹿特堤の病院又もヘインノールトといふ所を見物しあどして少しも油斷せざるあり故の日本人の遊行せしとも迚も委しくこを書載すると能はず只其内の著しき遊行と格別なる話とを纔の爰の述るあり

外國事務宰相祝宴の事

第六月二十三日我五月十六日のセヘニンゲンといへる所の浴亭にて外國事務宰相ファン・デル・マエセン・デソムブレフ氏大なる祝宴を設け日本使節の晝食を馳走せり此時邑中にも貴客尊敬の爲にて家々の三色の染分けさる國旗を立て列らね浴亭にも日本の旗をも飜せり

立派なる浴亭の樓上にも數多の貴客來會し食卓も善美を盡し多くの花枝を以て如何にも美麗の飾り立さり

外國事務宰相も右食卓の上席の海の方を背にして座し海邊眺望のよきよふの其真向第一の日本使節松平石見守を

座せしめ其余の諸客も一統よて車座をかす右順序も外國事務宰相の右の方より羅馬教王の使節へレオヂ左の方より比利時國の使節巴侖ジヤルジ教王使節の次より國事宰相某其次より墺地利國の使節巴侖ランケナウ軍事宰相某墺國使節ビルレブラヘ天主教事務宰相某瑞典國使節小侯爵マフニュス當村役人某他洲領事務宰相の屬役シュルデル（日本使節饗應役）掟役巴侖ソイレン下院の紳士ビーベルステインドンクルキュルシュス（饗應役）森山多吉郎柴田貞太郎刑獄事務宰相某阿諾威國使節巴侖ホデンベルフ海軍事務宰相京極能登守其次も先より載せとる第一等の日本使節又其次よゼ子ラールマヨール小侯爵ファンレーテン（第一等饗應役）是班牙國使節ラヘールジヤバト他洲領事務宰相某米里堅國使節パイキ上等評議役ヨレスゼ子ラールマヨールウィルブレンニンキコロ子ルベルスレイケン（饗應役）外國事務局書記官頭取マセル學士ホフマン（饗應役）ラチオピソン國王の内使某佛蘭西使節巴侖デラヒレスーレウキス勘定局宰相某英吉利國使節アントレウヒュカナン下院の筆頭ファンレーテン其次も即ち先より載せとる比利時の使節ゆり

此馳走も實より善を盡し美を盡し諸事高貴なる賓客を請待する決より適へり夫故事濟て後日本使節の滿悅せし由を外

國事務宰相より表向より當樓の主人より言傳へとり扱又右饗應の間より音樂初まりボトコルセキ氏の指揮よて儀式の曲を奏せり此日天氣も十分ふらされとも樓下より築山より至るまて夥〳〵群集せり其後退散の少し以前凡第九時頃より日本使節甚奇麗ふる著服よて座を立ち居合せさる小兒婦女子等より向ひ例の愛敬よき口上よて手を握り且所持しさる菓子を與へとり其後日本使節を始め其他の諸賓客も皆其家より歸る

右馳走の指圖役を勤め勝れさる手柄を顯はせしは外國事務書記官頭取マセル及び海牙の掟役巴命ソイレンの二人ふり四人の日本使節及び其下役等の喜大方ふらず殊より海軍宰相并より其屬官と俱より築山の上より登りし頃より也一しホ快豁の色を顯はし其時右築山より居さる多くの人と交りまさ小童等より親〳〵みしより其小童等は花を採りて日本使節より贈れり此感會より使節の始め來りしは第六時頃よて歸りしは第九時半の頃ふり其道筋來りし時は新道を通り歸りし節より古村古道を經とり其節見物の群集最も夥しく殆と往來も出來ぬぢりふり右の通りよて諸事首尾よく事濟めり

海軍事務宰相祝宴の事

同月二十四日（我五月廿七日）海軍事務宰相カッテンデイキ立派なる晩食を設け日本使節を招きさり其客亭の庭上よて美麗なる花枝を飾りしく數多の鏡の光と硝子燈の光とよ相映して總體甚盛なる景色なり又庭中よも漢土風よ造りさる宮殿ありて見事よ燈を耀し其中よて軍中よ用ふる音樂を奏せり其他庭中一體の摸樣極て風致あり凡第十一時頃より饗宴相始り日本使節并よ其饗應役外國局諸役人諸宰相及ひ其他の重き役人貴人等夥しく集會せしゝ此時居合せさる貴婦人の裝ひ殊よ目覺しゝ日本使節も右來會の諸人と極めて懇切よ相親しみ時刻過て後旅館よ歸り其余の

衆客も猶暫の間殘りさり

右同日饗應の以前よ日本の使節等官府の金銀工作場よ往きさり此工作場をホールスコーテンといふ所よ在りて仏ムケン・ケムペン氏よ屬せしゝ其節往來の道筋よも日本國旗と和蘭國旗とを多く立列らね又其住宅の樓上よも奇麗なる花枝を飾れり日本使節右住宅よ暫時休息の後工作場の内よ誘ひ其處よて金及び銀の荒金よて色々の肝要なる試驗をなし又も純精の金銀よて種々巧妙なる細工を爲す所を見さり右工作場の内よ留まるを一時ばかり過て元の住宅よ來り又暫く休息せり其時後日の記念よとて巧

みよ造りさる國王の半身像を贈れり右像も金地よ銀よて模様を顯せ〻其上よ浮字よて和蘭王維廉第三と書き裏の方よも謹作日本國帝之大命千八百六十二年とぞ書きける其次よ又ニコラ氏フーシリン氏コ〻氏の蒸氣仕掛の粉挽車を見物の爲よゲーストブリュフよ誘はれさり其節當處の役人留守中よ付フールルヒュルフ村の役人待請をゐ〻右工局附の役人案内をゐ〻さり日本使節右仕掛よて挽きさる粉の精良雪白よ〻て細密ゐるとと又其諸事の速ゐるとよ感服〻殊よ其粉の詰所〻の巧みゐるよ驚けり此饗應役の諸人日本使節と姑く懇切ゐる話を爲〻此迄日本よ此の如き粉挽車も勿論極めて手輕き仕掛さへ〻ゐきとを知れりきれど日本よも粗末ゐる粉ゐらでもゐきと見へさり故よ日本使節右仕斗見物中此の如き仕掛を拵立る爲よ入用ゐる書物を得さきよ〻を云出さり凡一時許の間工局見物〻其後暫時休息〻て歸れり

安特堤府遊覽の事

第六月二十五日（我五月二十八日）第十一時半の頃よ日本使節安特堤の蒸氣車立場よ到著す掟役ブローヒル・アンヒルを誘引〻兼て定め置さる休息所よ赴きけれど當所の役人此所よ出迎へり夫より用意の車よ乘〻ゞ當所の役人も第一等

の使節と乘合夫より順序よ從て次弟よ乘さりフラックと名
くる旅亭よ姑く休息し其後コステル氏の王細工所よ赴き
夫より耶蘇教の徒の立置さる幼院を見物し次よ手遊屋の
店へも一寸立寄り夫より一ト先旅館へ歸り凡第六時半頃よ
再ひ車よ乘り國王の館を見物の爲よ出掛さり日本使節の
到る所いつこよても見物人夥しく群集し旅亭の前ふども
宛も圍を請くるゝ如く殊よ日本人窓より顔を出し見物の
者よ會釋ふどし色〻の品物および小錢等を擲與へし時も
此群集殊よ甚しゝりき扨國王の館を一覽しクウベルとて
屋根の高き所よ登りふどし夫よりオウデケルキと稱する
寺よ詣て其後カルフルスタラートといふ町を通り第八時
半頃よ旅亭よ歸る

同二十六日（我五月廿九日）國用造營場よ到り夫よりオラニイ・ナス
サウと號くる兵卒の屯所を一覽し次よフリッシンゲン氏ジュ
ドックファン・ヘール氏の工局を訪ひしよ朝食の馳走あり夫よ
りボイクスローテルと稱する運上所よ到りけれも此所の
ヒルステノウといへる廟所よて朝の音樂を爲せり
夕方よかりて和蘭貿易會所よて食事を爲せり此處も兼て
待請の爲よ立派よ飾付け庭よも燈を耀らし且其内よ美麗
なる小學を設けスチムプ氏の音曲を樣〻よ聞らしめり右

食事の席に列ありし人員數多あれど頭立さるも此所の役人某本府警衛の號令官某スコートベイナクトベスセルロイテナントコロネルヤクソン等ありし日本使節も右諸役及び來會せる貴婦人等と殊更に懇親す右食事畢て後凡第八時頃に旅館に歸りしが其夜も更るまで窓に出て旅館の前に雜沓する諸人の樣を詠め居れり

二十七日（我六月朔日）にも日本使節國用傳信機の場所に往けり此日も國事宰相局の屬官スターリンクの案内ありて見物すみてトレスリンフ氏の石版所に往きしに此所にて使節馳走の爲に其眼前にて種々彩色の画を摺出せり日本人之を見て頻に感服し色々の質問を爲し大に滿足の色を顯して此所を立出で次にコーエー氏の砂糖製造所を訪ひ夫より盲人館を一覽し第一時頃に及ひ又其所を出て博物館に往きしに此所にも亦夥しき待請の設ありて費用をも惜まず煩勞をも憚らす客殿より諸所に至るまて飾付に美を盡しとると目を駭ろすばかりなり其他動物學科の園庭の盛なりて我都の光耀を添るに足れるとも爰に論述するにも及ばざるべし

晩景におよひ日本使節逍遥園の夜遊に出會せしが其内數人もスピークルスタラートといへる町のイブスヌーク氏

を訪ひ其眞影所を一覽し自分の眞影をも取らしめさり夜遊もス丟ムフ氏の設け尤も見事よして其燈明就中美麗ふり惜むらくも此時俄ょ暴雨降出せしより諸人甚と難澁し來會せる婦人等よも衣裳の爲ょ殊ょ大ふる故障ふり

二十八日（我六月二日）よも日本使節第十時頃より乘出し當町の役人及ひ其余數人ょ誘れ當時普請最中ふる百工館の周圍を乘廻し夫より市中の幼院及ひファンホウテン氏の倉を順覽し就中同氏所藏の日本漢土の古物を見て感服し夫より諸家の店ょ立寄りしゥ其内最も重ふる店も ハハフルコッテ氏 リュラス氏 ファンデルモーレン氏 シンケル氏 ハルマン氏等ふり第一時半頃ょ會議所ょ至り其會議を爲す坐鋪ょて小休の馳走あり其後離別を告るとて安特堤逗留中厚き款待を受け至極滿足のよし丁寧ふる挨拶を述へ凡第三時半頃ょ海牙の道ょ旅立ちぬ

和蘭王ょ謁見の事

第七月一日（我六月五日）晝後第五時半頃ょ日本使節儀式の行列ょて國王の館ょ出仕せり此行列も騎兵一隊と五輛の官車ふり此五輛の内四輛も馬二匹宛ょて率き真中の一輛も四匹の馬ょて率さるゞ是れ即ち第一等使節の乘られしふり其他乘車の入口ょもいつれも若黨一人宛扣居り騎兵も右

乘車の前後左右を圍みて守護せしかり途中通行の間を亦
ールンと名くる樂器と喇叭とを吹立つ是も軍禮に用ふる
音樂にて極めて勇ましき調子かり此時使節を誘引せしを
セルモニーメーストルといふ役人かり此役人事濟て後ベ
レフーと號くる旅館へ使節の歸らるゝ時にもまた送り行
きたり使節程ふく王の館に到著ありしに館の内にもグレ
ナジールと號くる軍士警固の爲に大隊を備へ使節の入來
を待受け軍法の儀式を以て尊恭の禮を爲せり此時外國事
務宰相出迎ひ誘引して國王の前に出て謁見の禮を行もし
む右謁見の禮凡半時計もうこれり扨日本使節の國王に言

上せし語を翻譯すれば其大意左の如し

謹白

私共　大君殿下の大命を蒙り今日大王の殿下に拜謁
し奉るに感激の至に堪へず候抑條約取結ひ候てより
以來兩國の交際日々に親密に成行き候之に依て此度
大君殿下親筆の書簡を大王に呈して聊微衷を表し且
條約の取極を改定せんと欲するを私共に命し取計
らむしめ候其他私共謹で大王の爲に幸福を祈り貴國
萬民の安全を希ひ申候

國王の返答大意左の如し

予今　貴國大君殿下の好意を足下より承知いさゝ大慶の至り候是よりも　大君殿下の幸福を祈り貴國の泰平を希ひ候殊に日本と和蘭の交際も條約の定に基き舊來の好みを繼き此末益張大親密ならんことを偏に期望いたし候

此時當所并に諸所より此大禮を見物せんとて其群集せしと大方からず然るに此日天氣好からざりしも實に殘念なる事なりき

二日（我六月六日）日本使節王妃世子公達姫君フレデリッキ君に見參す

日本使節國王に贈物として立派なる寶刀を獻ず其柄も寶石にて飾れり世子に獻せし太刀も畧同樣なり

六日（我六月十日）國王王妃日本使節を馳走の爲にヘット・ホイステンボスと號くる宮殿に於て午時の大饗を賜ふ其翌日公達姫君もまさヘット・ホイステパウと號くる宮殿にて晝食を賜ふ

デルフト府遊覽の事

第七月三日（我六月七日）日本使節同勢の内十四人にて海牙の便船に乘りデルフト府に來されり第十時頃にハークポールトと號くる都門に至りければ當地の役人出迎ひ民兵の音

樂を誘引し用意の車に打乘せ先つ國用の細工所に連れ行き夫より少し府城を離れ彈丸の鑄立場を一覽し第一時頃に府城に歸り會議所にて馳走あり其間門前にて民兵の音樂と砲隊の音樂と代るゝに奏し之り第二時頃小筒打立所に行き夫より耶蘇教の新寺古寺を見物す此寺くも世人の兼て知りし通り古來有名ある人物の像を飾りし處なり右見物畢て大學校に臻りし學士の面く此時既に待受としてプリンセンサールといふ客殿の中に集り居れり日本使節の入來を見て其内よりケウレナールといへる役人立出て使節に向ひ貴國と和蘭との交際も年歷淺からず今日始めて大使に會することを得て學校の面目一方ならず侯學校中の事に付ても何事によらず尋ねさまふをあらむ答へ申べし且此後日本國の學士と親密なる交を結ひ學問上の事も成るべきとけ雙方の論說を交易することを得るに至らむ學校の喜び何事ぞ之に過きずとぞいひける

日本國の通辨官右學校役人の口上を譯して日本使節に通せしに使節大に喜び同し通辨官に命ト親切友愛の意を蘭語を以て返答し其後學校役人和蘭譯司（ドンクルヒル）及ひ其他の大小學士の案内に從ひ諸雜形類を納めさる所に入り諸器物を見て大に感服せり

右見物より姑く手間取りて後學校役人ケウレナール氏の宅より招かれ其所より少く休息す此時ケウレナール氏の内室の招きよて數多の婦人寄添へり使節學校を出る時多人數の生徒等一列より並ひ音樂を奏して尊恭の禮を爲せり其後イヘウケンスヘルト氏の毛氈製造所及びシラース氏の羅紗織場を一覽す右通行の間よドンクルキルヒス氏の宅よも立寄り最後より今日諸所を案内したる當地役人の宅よも罷越し夫より暇を告け車より乘り第六時頃より海牙より歸れり此日天氣惡しく雨降り續けされど何れの所よも夥しく群集し日本使節より會釋し中よも花を採りて贈る者あり

公館官署の類も勿論市中の家くよも所くより私蘭國旗と日本國旗とを飾り置けり

來丁府遊覽の事

使節の同塾此度も十六人よて饗應役數人の案内より從ひ第十時頃より來丁より來れり其イッテポールトと號する都門の少し先よて俗役并軍役懸りの諸人及び當所の役人ドテブールル・シーゲンベーキ掟役セ・ウ・ヒュフレフトマヨールイ・ハ・ムテルブリュシヘン當所警固の號令官等出迎ひ市中よも所くより日本並和蘭の國旗を立て列らぬ航海學校の誓古人を土手よて列を立て尊恭の禮を爲す使節も夫より直より博物館より

趣き其役人の案内よて色〻見物して感心せり其内一二人早急の際よて諸事細うよ見るを能もすとて窃よ歎せり由ふり此時天氣快晴よ及びけれど乗物の戸を開き更よ遊行すべしとて右博物館を出て夫より大學校よ到る此處よても大學士プ・ル・レイキといへる人出迎ひ日本使節と問答し其後右大學士の誘引よて學校中を見分し本草局觀象臺窮理局舍密解剖局よ到り學士の指示せる品物及ひ證據を見せさる實驗等日本人仰天せざるもふし夫よりハ・ハ・イ氏アレホーレ氏よ至り呉絽服連及びポレミーテン類の工局を一見す此處よも兼て待受け種〻の仕事を為せりよ一〻

心を留て見物せり夫より會議所よ至り當所村役人民兵の號令官野戰砲隊の號令官等よ面會す夫より猶進て國用の大鍛冶局よ至る此局も先年日本政府の頼よりて大鍛冶所の形を造り贈りし所也此處よても當工局附の人員よ誘れ旗并よ色〻の物よて飾りさる客室よ通り厚く歓待せられ夫より局中所〻の仕事場并よ倉等を順覽し就中大小圓柱形の仕懸よて古鐵を直し捍金又も角金と為す所を見て殊の外感心し其外鐵軸錨鏈等大小諸種の製造を一覽し其後四十一ストレープ（我一寸三分餘）の大なる鐵の大鏈を水仕懸の〻木よて様し此〻木の勢力を示さんとて態〻其大鏈

を引切りさすが怜悧なる日本人も之まで大に仰天せり最後にカランツ氏ソーン氏の羅紗織場に臻る此處にても使節を歓待なし色々の所作に目を驚ろせり以上處々順覧の間諸貴人婦人等東方の異人を見んとて來りし者多し此中に花を使節に贈る者も儘ありける

多分の遊覧にて使節少し疲れし頃當所役人の宅に誘もれ晝食の馳走あり其間民兵の音樂絶ゆるとなし第八時半頃に至り馳走の厚きを謝し右役人の宅を出て都門を出る頃に航海學校の稽古人恭禮を爲せり總して此使節の來りし所及ひ往來の道筋等見物の群集せし事を云まてもなき事なり

雜記

二十五日に日本使節安特堤に來りし時其附屬の日本人等吹聽なしにヘエンノードに至り和蘭蒸氣船仲間にて建置さる普請場を見物せり其節右仲間頭取の案内にて殆終日細工場に留り夕方に及ひて海牙に歸れり又名高き鹿特堤の病院へも右の如く忍にて來り終日其處に居れり又ソイデルビュルフの醫學所へも日本人七名にて屢來遊し始めに諸器械を熟覧し其後解剖稽古所に至り色々綿密なる稽古をなし其學び得さる事を直に手帳に書留めとり其後日本

人の怜悧よりて物毎よ巧者ゑるよ駭きしとありヘンデリックスといへる人日本人よ眼料療治の法を爲し見せしよ日本醫師等其習ひしをを爲し試みんといひて種々の六敷手術を精密敏捷よ爲し遂けとり此時見物の群集夥しかりしが何れも殊の外よ仰天す又此度日本人と同道せし人よレオンデ・ロス子イといへる勝れる學士あり年齢七歳二十五歳ゑれど胸よ數多勲爵の表章を懸ける人よて東洋及び亞墨利加の事を講究する任を受け嘗て東洋言語を學ふよ善き書籍を著せり此人今度佛蘭西政府の命を蒙ふり日本人よ陪從し日本人歐羅巴諸國を周行する間之よ同伴する由ゑり

又日本人等程ゑくソイデルビュルフよ三度目の遊覽をゑすべきよ風聞あり

日本同勢の内よ安持堤よ行ゑざりし者ありて二十七日よ新兵民兵等の調練を見物よ來よれり右の日本人よ調練の理解並業前等少し教へとれど彼等其跡よて大砲一挺を遣ひしゑ諸事能く心得へ其手續き甚見事ゑりワールスドルプといふ所の原よて調練ありし節よも彼等來りて鐵砲を取扱ひまと其手際をあらをしとり

まと日本使節の内三人連よてイシオートスコールといへ

る初心なる者を教授する所より行きとり不意の事よて教頭
并役人等兼て用意も爲さゝりしゝうど折角の珎客より萬事を
明らかに見せしむるよ差支へさる事なりしゝ日本人凡一時ど
ろりの間諸事熟覽し自ら色〻の圖取あどを爲せり彼等殊
よ小兒を教導する人の辛防よきよ感心し且其制度の適當
しさる事と人心の歸服し居るよ駭けり
國王より命ぜられし日本使節饗應役の者より來因河筋の
堤方奉行へ掛合ひ日本使節を迎へ來因河筋の普請の仕樣
を見せ諸事委く說き聞らすべき旨所望ありとり有よ付近
くの内よ日限をさゞめ日本使節を誘ひへーテンビュルフの
立場よりリッセを越し亞零湖の干潟の内を通りレーフワト
ルよ赴き此處よて干潟支配の者使節を迎へ馳走の爲よ大
仕懸なる機關の運動あるべし夫よりノールドウェーキを經
てカット空イキよ赴き此處よて使節よ食事を進め水門を見
せ諸事を說き聞らせ相濟て後使節を海牙よ歸らしむべし
日本人烏特立よ來るべき時日もいまゞ相分らずと雖此地
逗留中よ何れ一度セイスト及びヂリイベルベンへも罷越
し其節まさセイストの陣所をも見物すべし此事既よ風聞
ありて夫こ待受の用意せり其外時日よ猶豫あらもフレー
ス空イキの水門をも見物すべきよしなり

日本使節と外國事務宰相と談判の主意を先より日本より和蘭及び其他の諸國と條約を取極日本某港を千八百六十三年第一月一日より開くべきよしを定めさり然れども今より日本より此定めを姑く延期せんことを求むるよしあり使節の存意も日本人民猶未だ十分に開けず夫故今俄に所々に於て歐羅巴人と相觸るゝ時は國の太平を害ふに到るべしとかり

英吉利に於ても五年の延期を承知せり（日本人の求めしは七年なり）佛蘭西に於ても疑とゝさる返答あゝ何れ外諸國と同樣の振合にすべしとかり和蘭政府に於ても延期の事承知せしゞ又も佛蘭西同樣の説あるゝいまだ相分らず然れども今日新に外國事務宰相と應對ありし趣ふれば多分右の談判も既に相濟さるべし

日本使節伯靈の方へ出立すべき日限は第七月七日（我六月十一日）と定まりさり然ども殊によらば今少し延引すべし其故はスーストデイキに居ます國王の母君を訪ひまいらすると否との程いまだ相分らざるによれり

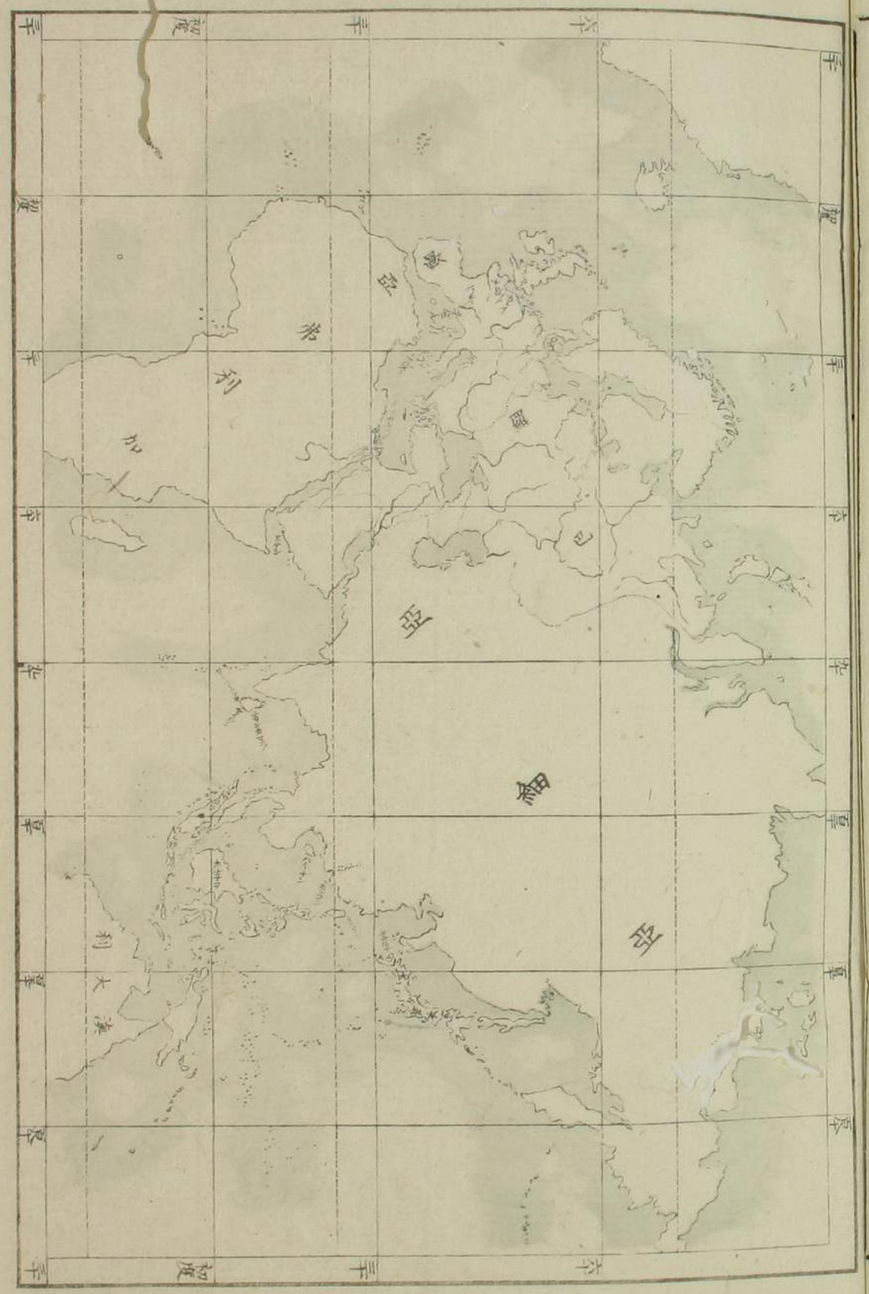
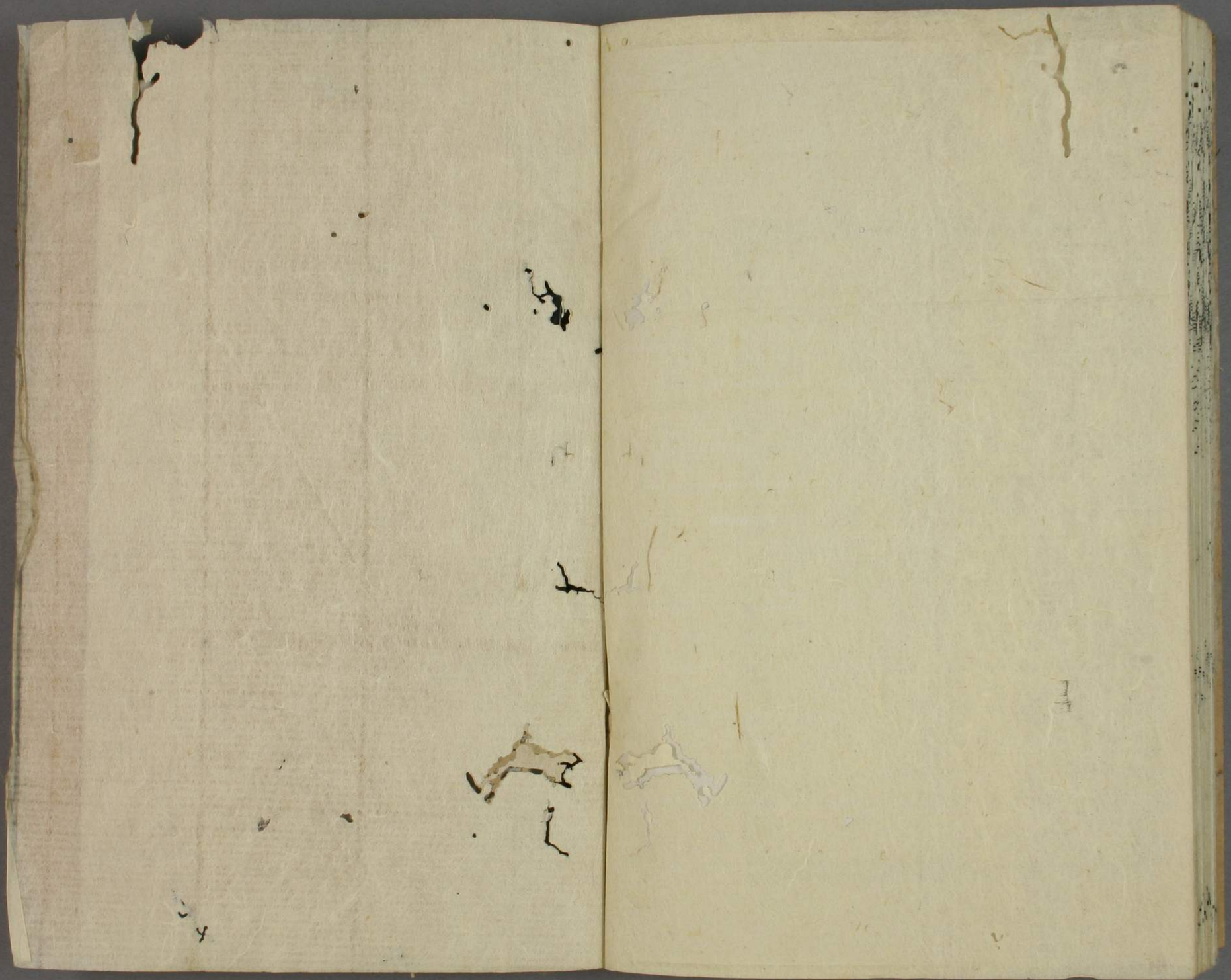
日本使節出立の節は應接役の者之を送りて普魯士境に至るかゝへ多分ジセルドルフに至り此地に普魯士王の應接役出迎ひ誘ひ行かるべし

日本使節佛蘭西使節の旅館を訪ひしよ折節留守中よて書記官の者出迎へり

英吉利使節と日本使節の為よ祝宴を催せり

日本使節葡萄牙の使節巴侖セサルを我方よ招けり又安特堤の貿易會所より一人の用達を日本使節よ附置しが其者諸品物の見本を持行しよ日本使節其内より最も本國よ關係ある物を指示せり其他日本使節右用達と相親しみ交易の學問及び日本交易よ係りさる事等を尋ね問へり

日本國使節針路略圖



發閲目錄
舶來蕃書類
官版原書類
同翻譯書類
老皂館
東都竪川三之橋
萬屋兵四郎